

News Letter

Vol. 08

2025年9月



令和6年度学位授与式の様子

保健科学部は5年目を迎えました

保健科学部長 五百川 和明

日頃より、福島県立医科大学保健科学部の教育・研究活動に対し、温かいご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。今年度より保健科学部長に就任いたしました五百川和明です。

おかげさまで、本学部は令和3年度の開設以来、今年度で5年目を迎えることができました。また、本年4月には、大学院保健科学研究科保健科学専攻(修士課程)が新たに開設され、福島駅前キャンパスは学生の活気にあふれております。

本学部ではこれまで、確かな専門性と豊かな人間性を備えた専門医療技術者の養成に力を注いでまいりました。学生たちは、講義や実習、さまざまな学内外の活動を通して、日々着実に成長しており、これもひとえに保護者の皆さまをはじめ、関係者の皆さまの温かいご支援の賜物と、心より感謝申し上げます。

本ニュースレターでは、学部の最近の取り組みや学生の活躍の様子をご紹介します。こうした情報を通じて、皆さまと本学部との関係がさらに深まることを願っております。今後とも、変わらぬご支援とご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



保健科学部の 特色

教育環境

- 各分野に精通した経験豊富な教員を全国から招へい(67名)
- 医療機関等で実際に使われている高度な実習機器を導入

カリキュラム

- 県内唯一の特定機能病院である附属病院などにおいて、充実した臨床実習を実施
- 医学部・看護学部の教員も一部の授業を担当。より専門性の高い教育を受けられる体制
- 医学部・看護学部の学生との合同授業により、チーム医療を実践的に学べる
- 福島県の地域医療や災害医療を学べる

TOPICS

学位授与式

(令和7年3月25日)

福島県立医科大学講堂において、令和6年度学位授与式が開催されました。今年度は保健科学部において初の卒業生を輩出する年であり、1期生137名が列席しました。

竹之下学長は、式辞の中で「人々の命と健康を守るための学びが決して楽ではないことを誰よりも私たちがよく知っており、みなさんがそれぞれに困難を乗り越え、本日ここに集うことができたことに深く敬意を表する。みなさんには、しなやかに学び続けよという言葉を送りたい。」とお祝いの言葉を述べました。



入学式

(令和7年4月9日)

ふくしん夢の音楽堂(福島市音楽堂)において、保健科学部新入学生145名を迎えて令和7年度入学式が開催されました。

竹之下学長は、式辞の中で「医療の専門家になるためには、一見、医療とは直接関係のないと思われることまで視野を広げて情報を受け取り、そこに医療との関係性を探る姿勢、問題意識が求められる。常に社会全体にまんべんなく関心を向け、なぜなのかと問い続けて欲しい。」と新入生に対する期待の言葉を述べました。



授業風景

福島県の現状と医療

令和7年4月30日～5月28日に1年生合同の授業が行われました。これは、東日本大震災とはどのような震災であったか、その影響について学ぶ科目です。充実した講義と震災地域への見学実習を行います。今回は、東日本大震災・原子力災害伝承館では語り部講話を受講し、東京電力廃炉資料館では原子力災害の現状について学び、コミュタン福島では環境放射線に関する実習に参加しました。また、福島県の各地域での医療環境の特徴について理解し、専門医療技術者がどのようなことを担っていかけるか、グループワークを行い、ポスター発表会を実施しました。



ポスター発表会



東京電力廃炉資料館での集合写真

年間GPA※表彰式

(令和7年4月25日、5月8日)

昨年度1年間の成績に基づいて、各学科の学年1位を修めた学生が表彰され、賞状および副賞が授与されました。

4期生

理学療法学科 秀間 萌葉
作業療法学科 栗原 美波
診療放射線科学科 古内 涼々香
臨床検査学科 斎田 あず



3期生

理学療法学科 板橋 唯
作業療法学科 岩井 優衣
診療放射線科学科 鈴木 美柊
臨床検査学科 吉田 百華



2期生

理学療法学科 草野 美寿々
作業療法学科 円谷 みのり
診療放射線科学科 渋谷 彩乃
臨床検査学科 松崎 優聖



※GPA(Grade Point Average) :

科目ごとの成績をポイントに換算し、さらに単位数に応じて加重平均したもの

令和7年
7月12日

オープンキャンパス



福島駅前キャンパスで保健科学部オープンキャンパスを開催しました。今年度は延べ1,527名の方にご参加いただきました。各学科の展示・体験を楽しみ、スタンプラリーに参加するなど、充実したイベントで盛況に終わりました。参加された皆様、医療従事者や保健科学部に魅力を感じ、将来本学で学びたいと考えていただければ幸いです。

理学療法学科



理学療法学科では、教員による模擬講義の他、学生生活についての説明を学生が行いました。来場者からの相談に対しては、準備した相談コーナーだけでなく、フロア内の各箇所でもスタッフが対応しました。体験コーナーでは、車いす駆動やボッチャの他、各種機器を使用したデモでは、筋力の量や働きの測定、筋肉への電気刺激、重心動揺を活用したゲームなど、学生スタッフが紹介・測定・説明まで行い、来場者・スタッフ共に笑顔あふれる時間となりました。



作業療法学科

今年は作業療法学科の魅力を存分に体験できるブースが多数設けられました。発達支援のワークショップ、各種アクティビティ体験、3Dプリンターなどの先端テクノロジー体験といった「作業」の支援に関わる実践的な内容が充実しており、多くの在校生が丁寧に対応してくれていたのも印象的でした。本学では、先端のかつアットホームな環境で作業療法が学べます。みなさんのご入学心からお待ちしています！



診療放射線科学科



診療放射線科学科は地下1階の展示ブースで実機等を用いた興味を引く企画を展開し、どのブースも非常に賑わいを見せていました！また、模擬講義では教員（佐藤 准教授、原田 助教）だけでなく、大学院生2名が自身の研究紹介や放射線について話してくれました。学生による実体験に基づいた学科紹介においても、多くの来場者が集まり学生の体験談に耳を傾けていました。多目的ホールでは学科紹介ポスターやポータブル撮影装置の実機展示に興味深く見学していました。学生・教員が一丸となったオープンキャンパスを通じて本学科を志望する受験生が増えれば嬉しいです。



臨床検査学科

臨床検査学科では、1年生から大学院生まで、総勢79名の学生が運営に参加しました。

今年度は、顕微鏡・超音波・微生物・検体などの検査体験に加え、学生の提案によって新たに「血液検査体験ブース」も設置、多くの来場者の方々にご参加いただきました。

さらに、検査に関するクイズイベントなど、在学生が工夫を凝らした企画も用意しました。ご来場いただいた皆様には、検査の知識を楽しく深めていただくとともに、明るく充実した学生生活の雰囲気を感じていただけたのではないかと思います。

お越しいただき、誠にありがとうございました。臨床検査学科一同、皆さまと再びお会いできる日を楽しみにしております。



理学療法学科

Department of Physical Therapy



新学科長挨拶

学科長 柴 喜崇 教授

このたび学科長に就任いたしました。地域の保健・医療・福祉に貢献できる、科学的思考と倫理観を備えた理学療法士の育成に尽力してまいります。

教育・研究のさらなる充実を図り、教職員一丸となって取り組んでまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

研究活動紹介

中野渡 達哉 准教授

歩行中の足の裏にかかる力を高精度に計測できる装置「loadsol®」を活用した研究が進められています。loadsol®は靴に装着できる薄型センサー(写真の水色のインソール)で、屋内外を問わず、様々な活動中の足底荷重をiPhoneなどを通じて記録できるのが特徴です。

現在、福島県内在住の高齢者や、福島県立医科大学附属病院・星総合病院(郡山市)の患者を対象に、将来的な転倒や関節障害の予測・予防につながる研究が進行中です。

得られた知見はリハビリテーションへの応用だけでなく、本学における理学療法教育にも活用されています。研究成果は国内外の学会で発表しており、国際誌にも掲載されています。



loadsol®を使用している様子



学部生による学会発表の様子

学びの様子

3年生

演習の授業が増えて、時間割も密になり忙しくなりました。1日休むと授業が進んでしまうので、ついていくのが大変です。

授業内容も、これまでのように知識を吸収するだけでなく、学んだ知識をもとに、自身の考えを表現したりグループワークを通じて考えを深めたりするようなアウトプットが求められます。より専門性の高い学びになっていると感じます。

(井上 紗那、小野塚 響)



2年生

理学療法評価学の一環で、地域在住の方々にご協力いただき生活機能測定会を実施しました。測定会では、問診に始まり、体力、バランス能力、歩行能力といった項目を測定し、その結果を説明するところまで実践的に行いました。



地域の高齢の方々を対象にした測定は、学生同士で練習しているときとは違って、目を閉じると不安定になってしまふなど、ひやひやする場面がありました。安全管理の大切さを実体験できた授業でした。

(岩崎 成美)



作業療法学科

Department of Occupational Therapy



新学科長挨拶

学科長 倉澤 茂樹 教授

このたび、作業療法学科の学科長を務めさせていただくこととなりました。作業療法士は、人の「いのち」や「健康」だけでなく、「その人らしい生活」を守り・育み・導く専門職です。超高齢社会や多様化する人々の願いや価値観の中で、その役割はさらに広がっています。本学科では、医学モデルと社会モデルの両面から対象者を支えられる実践力を培い、時代のニーズに応えられる人材の育成を目指しています。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

研究活動紹介

作業の治療的な可能性を探求する

作業療法は私たちの身近な「作業」を治療に用います。浅尾 章彦 講師のゼミでは、作業活動がヒトのからだやこころにどのような作用を持っているのかを明らかにする基礎的な研究に取り組んでいます。

研究では、脳や脊髄の神経活動を測定する手法などを用いています。高齢者や子ども、病気や障害を持った方がどんな生活や作業をしているのか？作業がどのような治療手段になるのか？作業の基礎的な分析を通じて、治療的な可能性を探求しています。



手の動きの制御に関する実験場面

学びの様子

地域作業療法学実習 単位バンク制度開始！



今年度より作業療法学科では、「地域作業療法学実習」に単位バンク制度を導入しました。学生は、子ども食堂、パラスポーツ、認知症カフェなど、地域社会のさまざまな活動の中から、関心のあるものを自ら選び、主体的に参加します。単位バンク制度は、こうした活動に費やした時間を、地域作業療法学実習の一環として位置づけ、単位として認定する仕組みです。学生たちは、地域で暮らす高齢者や障害のある当事者、支援者との交流を通じて、作業療法士が地域でどのような貢献ができるのかを実践的に学んでいます。

今後も地域と連携し、地域に根ざした人材育成を目指します。

学生の声

地域作業療法学実習の単位バンク制度を活用し、オレンジカフェに参加しました。オレンジカフェは、「認知症カフェ」とも言われており、認知症の方やそのご家族、地域の方々が集まって、話し合ったり相談したりできる場所です。今回は、体操を通じて高齢者の方々と交流しました。一緒に体を動かすことで自然と会話や笑顔が生まれ、楽しい時間を過ごすことができました。

また、レクリエーションを「運営する側」と「参加する側」の両方を経験したことで、声のかけ方や気配りの大切さなど多くの学びを得ることができました。

今後は、オレンジカフェに限らず、運動導入教室や子ども食堂などにも積極的に参加し、地域の方々と交流や学びを深めていきたいと思っています。

(1年 星 瑚都美)



診療放射線科学科

Department of Radiological Sciences

研究活動紹介

長谷川研究室では、核医学分野で使用する診断・治療用薬剤の開発を行っています。具体的には、病変部位に集積する薬剤を合成し、それに放射性元素を標識する研究です。放射線は用途によって使い分けており、 γ 線は診断用に、 α 線・ β 線は治療用に活用できます。このような放射性薬剤を合成し、さまざまな疾患の診断や治療に向けた薬剤評価を実施しています。さらに、薬剤の簡便な合成法の開発や、安全性評価手法の確立にも取り組んでいます。



実験の様子

学科交流会の開催



新2年生が企画・運営した新入生学科交流会が、地下1階の実験室で開催されました。参加した新入生は大学生活やサークル活動について先輩たちに熱心に質問し、上級生は親身になってこれまでの体験談やアドバイスを共有していました。

3年生も積極的に参加し、幅広い学年での交流が実現しました。実験室という身近な環境での開催により、リラックスした雰囲気では有意義な対話ができました。新入生にとっては先輩との関係構築とこれからの大学生活の適応を促す貴重な機会になりました。



学びの様子

JRC総会学術大会

4月に横浜市で開催された第81回日本放射線技術学会総会学術大会に、4年生の学生が参加してきました。例年多くの学生が学会に参加して学びを深めています。右の写真は学会で開催されていた簡易線量計作成セミナー参加時の写真です。このセミナーではハンドゴテを使って抵抗やダイオード等をベースに取付けし、線量計を組み立てていきます。出来上がった線量計に電源が入った瞬間は、大きな喜びがありました。そのほか、最新の研究発表を聴講したり、展示会場で最新の医療機器の説明を受けたりと、学生にとって刺激的な数日間となったようです。



臨床実習

4年生の臨床実習は、4月15日から8月1日の間に週3日間で14週にわたり実施されました。臨床実習は、附属病院放射線部の他に、福島市内1か所、郡山市内2か所で実施されました。写真は、附属病院放射線部の本田係長から学生が臨床実習の説明を受けている場面になります。臨床実習は、1グループ4名から5名のため、グループ単位で、実習説明を受けておりました。今年度も無事に実習を終えることができました。



大学院紹介

2025年4月に大学院保健科学研究科が開設され、診療放射線科学領域では、社会人大学院生2名を含む8名の修士課程学生が研究に取り組んでいます。本領域は、医学画像情報工学、医用画像科学、核医科学、放射線治療科学、医学物理の5分野で構成されており、それぞれの分野において、本学専任教員に加えて第一線で活躍する外部講師を招聘し、専門性の高い講義と実践的な研究指導を行っています。大学院での学びと研究活動を基盤に、将来は研究者、教育者、あるいは臨床現場での実践的指導者として、保健医療分野の発展に寄与する人材となることが期待されています。

(文責:三輪建太)



臨床検査学科

Department of Clinical Laboratory Sciences



新学科長挨拶

学科長 豊川 真弘 教授

令和7年4月より、臨床検査学科長を拝命しました豊川真弘です。大阪府出身で、専門は微生物検査学です。臨床検査学科では教員が一丸となって教育・研究・学生支援に努めてまいります。よろしくお願いいたします。

研究活動紹介



本年度より新たに修士課程が開設され、臨床検査学領域では8名の教員が研究指導に従事しております。感染症、がん、心血管疾患、認知症、リウマチなど多岐にわたる疾患を対象に、基礎研究から臨床応用研究に至るまで、7名の大学院生が教員と連携しながら日々精力的に研究活動に取り組んでおります。これらの取り組みは、質の高い地域医療体制の構築と、地域医療のさらなる発展に寄与するものです。

学びの様子



医大見学1年生

附属病院内の見学の一部を示しています。白衣を着用し将来かかわる部門を見学します。病院見学は各診療部門や検査部門を見学し、実際に働いている様々な領域のスタッフから貴重なお話を聞くことができました。



臨床技術基礎演習

心電図検査についての説明を受けています。心電図の波形を正確にとって心臓の状態を調べます。スライドと模型を使って丁寧に説明を行います。生理検査は直接患者さんと接するため、不安を取り除き適切な対応が求められます。



白衣式4年生

4月からの臨地実習に向け、附属病院検査部の技師長より各部門の説明を受けました。各自に白衣を配布しこれから始まる実臨床での実習に期待が高まります。みんなとても良い表情をしています。



総合科学教育研究センター

Integrated Center for Science and Humanities

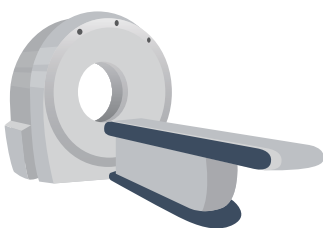
講義の紹介 No.06 数学Ⅰ (柴田 恭子 准教授)

新カリキュラムでは、診療放射線学科の専門科目として「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「応用数学」の3科目を開講します。「数学Ⅰ」では、高等学校の復習を行った後、微分方程式と行列について学びます。

微分方程式は、医学や放射線分野で重要な役割を果たしています。例えば、放射線治療では、体内の腫瘍にどれだけの放射線を届けるべきかを計算する必要があり、この際、放射線の拡散や吸収の過程は微分方程式を用いて数学的にモデル化されます。また、放射線を効果的に照射するために行列を用いて、複雑な三次元データの空間的な計算やシミュレーションを効率的に行っています。CTスキャンやMRIのような医療画像技術でも、微分方程式を用いたアルゴリズムが活用されており、このアルゴリズムの中心には多くの行列の計算が組み込まれています。

微分方程式と行列を学ぶことで、こうした技術の背景を数学的に理解し、それを応用する力を養うとともに、診療現場での問題解決能力の向上を目指します。

次の機会では「数学Ⅱ」、「応用数学」について紹介します。



大学院保健科学研究科を開設しました

令和7年4月に大学院保健科学研究科保健科学専攻修士課程が開設され、1期生27名が入学しました。

入学式では、診療放射線科学領域の秋谷直慶さんが大学院入学者代表として入学者宣誓を務め、学長へ誓いの言葉を述べました。



秋谷さん(左から3番目)

保健科学研究科大学院生の研究紹介



理学療法学領域 1年
岡田 はな

高齢者の健康を保つうえで、社会や他人との関わりや、気持ちのあり方が注目されています。私の研究

では、福島県の高齢者を対象に、「人とのつながりの少なさ(社会的孤立)」と「さびしいと感じる気持ち(孤独感)」が、高齢者の心身機能とどのように関わっているかを調べています。高齢者の健康には、周囲とのつながりだけでなく、孤独感や心理面への配慮も大切になるかもしれません。

編集後記

News Letter Vol.8では、入学式から卒業式、今年度からスタートした大学院の様子など、日々の活動の様子をお届けしました。学生と教職員が共に創る本学の活気と、学び舎の雰囲気を感じていただけましたか。ご覧いただいた皆様に、本学の「今」と未来への可能性を感じていただければ幸いです。

編集担当 高橋 規之



公立大学法人
福島県立医科大学

発行/福島県立医科大学保健科学部

〒960-8516 福島県福島市栄町10番6号 福島駅前キャンパス
TEL 024-581-5503 FAX 024-581-5528

お問合せはこちらまで
<https://fmu-hs.jp/>

発行年月日/令和7年9月1日

